



学校だより

5月号

令和5年4月28日

横浜市立南小学校

校長 薄田 秀明

「多様性を受け入れる」

がっこうちょう うすだ ひであき
学校長 薄田 秀明

新緑の鮮やかな季節となりました。新年度がスタートして1か月、新しい環境に子どもたちも少しずつ慣れ、元気のよい声が校舎の中に、校庭に響き渡っています。

さて、4月も終わりとなり、街を歩いていると脱マスクの人たちが増えてきていることを感じています。学校でも、「マスクの着用は個人の判断で」をもとに教育活動を進めております。昨年度も夏の熱中症対策の折には、屋外での活動や運動中はマスクを外すことを推奨してきましたが、ここ3年間マスクをつけることは当たり前前の生活を送ってきた子どもたちにとって、マスクを外すことに迷いがあることも事実です。また、様々な事情からマスクが欠かせないという場合もあるかと思えます。学校は小さな社会の一つです。様々な考えをもつ子どもたちがいて、それぞれが様々な事情を抱えて学校生活を送っています。そのことを子どもたちにも分かるように伝え、お互いを大切にした学校生活を送ることができるようしていきたいと考えています。

始業式には、「クラスのチームワークを大切に」、朝会の時には、「友達のよいところを見つけよう」「教室はまちがいや失敗をすることで、新しい仲間、職員と出会いがあり、気持ち新たにスタートしたと思えます。そんな時期だからこそ、新しく友達をつくるチャンスであると思えます。そして、私たちが子どもに寄り添い、不安な気持ちを解消し、学校に来るのが楽しみになるように、職員一同力を合わせてチームワークよく取り組んでいきます。

学習教材として、「デジタルドリル」を導入しました。昨年度途中で試験的(無料)に全学年に取り入れ、子どもたちの学びに生かすことができるのか検討してきました。結果、子どもたち一人ひとりに合った学びを確保できることや自分で苦手な問題を選択できたり、他の学年の問題に取り組んだりができ、まさに多様なニーズに十分応えられるものだと感じました。今年度は、全学年にデジタルドリルを導入(有料)し、授業中の学びの一助や学級閉鎖等の学びのツールとしていきます。これまでどおり、紙のドリルも併用し、書くことを大切にした学びも続けていきます。デジタルドリルは紙のドリルと違います。最後までやり切ることを目標とするのではなく、子ども一人ひとりに合った活用をしていきます。

暑さも厳しくなってくると思えますので、大型連休も体調には、気を付けながらお過ごしください。